

日本英文学会中部支部  
ニューズレター

2008年3月18日

### 1. 『中部英文学』第27号発行

『中部英文学』第27号が出来上がりましたのでお届けいたします。本号には2編の論文、および、先日の第59回大会シンポジウムのプロシーディングが掲載されています。投稿いただきました方々に心よりお礼申し上げます。今後もますます充実した学会機関誌として発展させていきたいと思っております。次号以降も変わらぬご支援をお願い致します。

### 2. 『中部英文学』第28号原稿募集

『中部英文学』第28号は、本年2008年12月末に、『英文学研究 支部統合号』の中の『中部英文学』として発行される予定です。以下の要領で原稿を募集します。多数の会員の方のご投稿をお待ちしております。

- (1) 締め切り日：平成20年(2008年)4月10日(木)(必着)
- (2) 投稿規定を遵守して原稿を作成の上、投稿の際、原稿には著者の氏名は付さない。  
(匿名の状態でご査読をお願いするため。)
- (3) 送付先は学会事務局。

#### 【注意とお願い】

投稿規定に反した場合は審査の対象としないこともありますのでご注意ください。特に最近、投稿規定5.(5. 英文の論文は投稿前に **native speaker's check** を受けておく) や2.(2の後半部分. 原稿の冒頭に一枚あたりの字数×行数と枚数(文末文献をのぞく)を書き込むものとする) に違反している論文が多く見られます。投稿規定を遵守くださるようお願いいたします。

### 3. 第60回支部大会研究発表者募集

第60回支部大会は本年 10月18日(土)、19日(日) に信州大学(長野県松本市)で開催の予定です。研究発表を希望される方は平成20年(2008年)5月31日までに以下のもののハードコピーを事務局に送ると同時に、電子メールで事務局 ([chubu@elsj.org](mailto:chubu@elsj.org)) までご提出ください。

1. 氏名を付した発表要旨1部 (横書き、邦文で300字程度、英文の場合は150語程度)
  2. 氏名、略歴、所属、職位(院生の場合は、大学院修士課程○年生、博士課程○年生と明示)、連絡先(電話番号、e-mailアドレスを含みます)を記した用紙
- なお研究発表は第2日目の午後を予定しています。

#### 4. 会費納入のお願い

振替用紙が同封されている方は2008年度（2008年4月1日～2009年3月31日）の会費、もしくは、2007年度までの会費が未納です。未納会費をご納入くださいますようお願い致します。（詳しくは別紙をご参照下さい）日本英文学会の会員でもいらっしゃる方は、2008年度以降の会費は、中部支部と日本英文学会の会費を合算した会費納入のお願いが日本英文学会より参りますので、そちらからご納入下さい。なお、事務局の作業の遅れのために、すでに納入済みとなっている場合はどうかご容赦ください。

なお、先号のニューズレターでもお知らせいたしましたとおり、日本英文学会に入会しておらず中部支部のみに入会しておられる会員の皆様には、日本英文学会への入会をお勧めしております。しかし、これまで中部支部のみの会員であった皆様に関り、中部支部のみの会員資格を継続することができます。この会員には、中部支部より中部支部に会費を納入するための会費納入書を同封しております。中部支部のみの会員を継続される皆様には中部英文学会開催に関するニューズレターやプログラムをお送りいたします。しかし、従来の機関誌『中部英文学』は、日本英文学会発行の『英文学研究 支部統合号（仮）』の中に組み込まれ、日本英文学会から発行・発送されるため、『中部英文学』はお届けできなくなります。

注意：3年間会費未納の方は4年目から自動的に会員資格を失います。ご注意ください。

#### 5. ホームページ開設のお知らせ

2008年1月より、中部支部のホームページを開設しております。<http://www.elsj.org/chubu>  
総会・理事会資料、過去のニューズレター、『中部英文学』に掲載されている論文の題目など、大会のお知らせ、入会・退会手続き等を掲載しております。是非、ご活用下さい。

日本英文学会中部支部事務局

# 日本英文学会中部支部

## 第60回大会のお知らせ



第60回大会は、10月18日（土）・19日（日）に信州大学（長野県松本市）で開催される予定です。記念すべき第60回大会の開催に当たり、以下の3点をメインに、たくさんの会員の方々にお越しいただけるよう、計画しております。

1. 学会内容の充実
2. 懇親会の充実
3. ホテルパックの充実

松本市は国宝松本城がある他、日本アルプスを一望できる日本有数の観光都市であり、市内に多くの温泉が湧いている土地でもあります。大学から歩いていける場所にも浅間温泉が湧いております。また、10月の半ばは、新そばの季節でもあり、新酒（日本酒もワインも）の季節でもあります。

是非、今から、この日程に松本にお越し下さることを計画しておいて下されば、幸いです。

## 【1. 学会内容の充実】

以下のようなプログラムを計画しております。(変更になる場合もあります)

### 10月18日(土)

お昼頃：理事会

14:00 開会式・総会

15:00-17:30 3つのシンポジウム

- ・「ダンディズム、その主題と変奏 –今、ダンディーとは？そして粋とは？–」(仮)
- ・「早期英語教育(0～12歳)の是非」(仮)
- ・「日英語における相同性を考える」(仮)

18:00-20:00 懇親会

### 19日(日)

9:00-11:30 特別シンポジウム「英語教育における小中連携をめぐる課題」

13:00-14:30 池上嘉彦先生講演「演題未定(相同性に関わる内容)」

15:00-17:00 ワークショップおよび研究発表

- ・ワークショップ “Theory into Practice”
- ・研究発表

17:10-17:30 閉会式

### 各シンポジウムの概要

#### ●シンポジウム1:「ダンディズム、その主題と変奏 –今、ダンディーとは？そして粋とは？–」(仮)

一般に英国におけるザ・リージェンシー 攝政時代(1811-20)にその淵源をもつといわれるダンディズムは、21世紀の今日においても、文学、哲学、美術、音楽、演劇、舞踊、映画、スポーツ、服飾、等のさまざまな領域で、その直接的・間接的な影響をみとめることができる。本シンポジウムでは、文学や映像作品のなかに登場する虚構もしくは実在の人物、それら作品の作者、そして人間一般の生き方などを視野に入れつつ、精神の貴族主義としての性格を有するこの近代的存在方式の諸相を、英文学、仏文学、映像文化(日米の映画)、社会風俗(ファッション等)を通して考察し、ダンディズムの今日的意義の解説をこころみる。

スピーカー(予定)

英文学：山口和彦(信州大学)、仏文学：堀田敏幸(愛知学院大学教授)、  
日本映像文化：清水明(信州大学)、アメリカ映像文化：飯岡詩朗(信州大学)、  
社会風俗ファッション：交渉中につき未定

## ●シンポジウム2：「早期英語教育（0～12歳）の是非」（仮）

約十年ほど前から、早期（幼児期）に英語教育を行うことの効果が社会的関心を集め、近年では高学年からの小学校における英語必修化が注目を集めるなど、日本の英語教育を取り巻く環境は大きな転換期を迎えている。

本シンポジウムでは、認知神経科学、第二言語獲得、言語心理学など様々な角度から早期英語教育（小学校英語を含む）の是非を検討し、早期英語教育は効果的なのか、どのようにしたらいいのか、またはどのようにしてはいけないのかなどを検証し、今後の早期英語教育の行方そして進むべき道を探る。

なお、翌日の日曜には、特別シンポジウム「英語教育における小中連携をめぐる課題」、日曜午後には、英語教育(大学)についての実践報告(研究発表・ワークショップ)も予定されており、合わせて参加されると早期(幼児期)～小学校～中学校～大学における英語教育の全体像をつかめるため、そちらとも合わせて参加されることをお勧めします。

・発表予定者（敬称略）

有路 憲一（信州大学） 寺尾 康（静岡県立大学） 奉 鉉京（信州大学）

若林 茂則（中央大学）他数名を予定

## ●シンポジウム3：「日英語における相同性を考える」（仮）

各言語にはそれぞれに特有の傾向があり、既存の言語形式や意味拡張、さらには言語話者による行為や言語文化における現象は、その傾向の具現であることが多い。例えば日本語では「切っても切れない」といえるが英語では” \* I cut it but I couldn't cut it”とは言えない。また、「リンゴを食べた」と日本語では言えるが英語では” \*I ate apple”とは言えず、必ず1個なのか2個以上なのかを言語化しなくてはならない。これらの2つの現象は、その言語の「傾向」（日本語：経過志向、英語：結果志向）によって説明できる。この傾向については、いにしえより drift やその言語における相同性として言及・研究されてきた。本シンポジウムは、日本語と英語の、語レベル・句レベル・文レベル・談話レベル・文化現象レベルにおいて、どのような相同性が見られるかということの検証を試みるものである。

翌日の日曜日には、相同性研究の権威である東京大学名誉教授・昭和女子大教授の池上嘉彦氏を講師に招き、相同性についてのご講演を頂く予定である。本シンポジウムは、その講演のケーススタディーでもあるので、本シンポジウムと日曜日の講演の両方に参加することを強くお勧めしたい。

●特別シンポジウム：「英語教育における小中連携をめぐる課題」

平成20年に入り、新学習指導要領が発表され、小学校に外国語活動が必修として導入されることが決定された。外国語活動の目的は、コミュニケーション能力の素地力を育成することであるとされている。また、中学校の外国語では、小学校での外国語活動を踏まえて指導することが明記されている。そこで、本シンポジウムでは、小学校の外国語活動と中学校の英語教育の連結をめぐる課題を取り上げて、小学校の実践家、中学校の英語教師、小中英語の専門家をスピーカーに迎えて、議論する。

発表予定者：徳武 隆夫先生(豊丘南小 教頭 小学校英語)  
長野県教育委員会指導主事(中学校英語担当)  
そのほか、小学校英語専門の教員 他

●ワークショップ：Theory into Practice: Issues in the Classroom

**Theme**

We will present a range of topics dealing with practical applications of theories relevant to current language education. It is the aim of this workshop to offer practical and informative material for language educators of varied backgrounds.

**Contents**

There will be three speakers, offering three different topics under the same general theme of recent issues in English language education.

- Speaking to Write and Writing to Speak (Jonathon Adams, Shinshu University)
- Building and Maintaining Good Relations Between JTEs and AETs (Sean Mehmet, Shinshu University)
- Loan Words in Japanese (Mark Brierley, Shinshu University)

## 【2. 懇親会の充実】

以下のような懇親会を計画しております。(変更になる場合もあります)

10月18日(土)のプログラム終了後には、信州産の新そばを味わって頂ける席を設けることになりました。馥郁たる風味の新そばを、近年とみに名声を高めつつある地元信州の美酒・佳酒(佐久乃花、明鏡止水、御湖鶴、深志鶴、善哉、岩波、笹の誉、大信州、アルプス正宗、月光など)や、日本各地の名酒——醸し人九平次(愛知)、天狗米(石川)、磯自慢(静岡)、越乃寒梅(新潟)、伊佐美(鹿児島)等——とともにご堪能下さい。

また、そばのほかにも、ひとつひとつに玄妙な味わいの具(五目豆腐・鉄火なす・野沢菜・切り干し大根・きんぴら・あずき・ひじき)を包みこんだ、門外不出のレシピの名物のおやき、地元産のチーズなどを、カベルネ・ソーヴィニヨン、メルロー、リースリング等で醸された信州産、ヨーロッパ産の赤・白のワインと一緒に楽しんでください。

## 【3. ホテルパックの充実】

JTB松本と連携し、5000円、7000円、10000円のホテルパック(朝食付き)をご用意しております。大学から徒歩10分以内の浅間温泉・20分的美ヶ原温泉にて紅葉を愛でながら入る温泉、あるいは松本城を望む市中心部のホテルをご堪能下さい。なお温泉旅館へのご宿泊は、恐縮ながら、一室を複数名でご利用願うかたちとなります。(市内にも温泉施設のあるホテルもございます。お問い合わせください。)

観光ハイシーズンでなかなかお宿の見つけにくい時期でもあります。(そのために事務手数料が発生しております)ですので、是非、JTBのホテルパックをご利用下さい。詳しくは同封のご案内をご参照下さい。

なお、同封の書類には「日本英文学会第60回中部支部大会」とありますが、これは、「日本英文学会中部支部第60回大会」の誤りです。ここにお詫び申し上げます。